



# とびっくす No.27

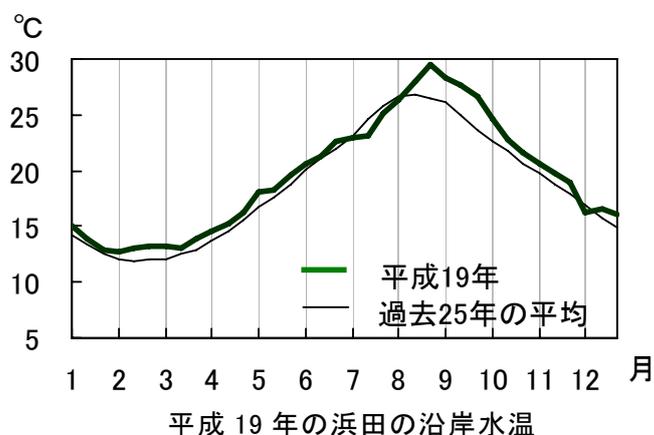
(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )

## 平成 19 年 (2007 年) の海況トピック

### 秋季および春季の高水温

平成 19 年は例年になく気温が高かった年であり、その影響を受けて島根県沿岸でも表層の海水温はかなり高めに推移しました。特に秋季の表層水温は平年より3℃以上も高く、10月の表層水温は水産技術センターにおける過去約 50 年の 10 月期の観測値中最高を記録しました(ただし、中層・底層の水温は平年並に推移)。

また、春季も平年より 2℃以上表層水温が高めに推移しました。そのためか、例年は4月頃発生する夜光虫(ノクチルカ)による赤潮が2月中旬の非常に早い時期から見られました。



### 有害赤潮の発生

夜光虫による赤潮は魚介類には無害であり、これまで島根県の沿岸で、“赤潮”と言えば本種によるものがほとんどでした。しかし、平成 18 年に県下で初めて有害プランクトンである「カレニア・ミキモトイ」による赤潮が発生し、そして平成 19 年もまた新参の有害種による赤潮が発生しました。



コクロディニウム・ポリクリコイデス



ヘテロシグマ・アカシオ

平成 19 年 8 月末に島前湾(西ノ島町)で有害プランクトン「コクロディニウム・ポリクリコイデス」による赤潮が発生し、また続く9月には西郷湾(隠岐の島町)でも有害プランクトン「ヘテロシグマ・アカシオ」による赤潮が発生しました。幸いどちらも魚介類への被害はありませんでしたが、ここ数年、これまで瀬戸内海や太平洋側だけのものと思われてきた有害赤潮が島根県を始め日本海側でも発生するようになってきています。ちなみに、昨年のコクロディニウム赤潮は韓国沿岸から海流によって運ばれてきた可能性が高いことが衛星写真の分析から分かっています。



西郷湾のヘテロシグマによる赤潮

平成 19 年に島根県内で発生した有害赤潮とその経緯

○ コクロディニウムによる赤潮（西ノ島町）	
平成19年8月28日	隠岐島西方でコクロディニウム・ポリクリコイデスが確認されたため県が赤潮注意報を発令
8月30日	浦郷湾の一部の水域が暗褐色に着色しているのを確認。警報密度(300 細胞/ml)を超えるコクロディニウムが出現したため、県が赤潮警報を発令
9月6日	その後の調査で、コクロディニウムの消失が確認されたため警報を解除 (魚介類への被害はなし)
○ ヘテロシグマによる赤潮（隠岐の島町）	
平成19年9月10日	西郷湾奥に暗褐色に着色が確認され、数百～千細胞/mlのヘテロシグマ・アカシオの出現が認められた。
9月11日	変色域は消失 (魚介類への被害はなし)

**ハリセンボンの大量発生**

平成 19 年の1月下旬～3月にかけてハリセンボンが沿岸の定置網に大量に入網して漁業者を困らせました。ハリセンボンは熱帯～亜熱帯性のフグの仲間ですが、海流に乗って日本海にも来遊し、冬季に低水温により衰弱して岸に打ち上げられているのがよく見られます。ハリセンボンは数年に一度多く発生しますが、平成 19 年は多いところでは定置網に1日数トンも入網するほど大量に発生しました。



ハリセンボン

**マダラなどが増加**

漁獲統計から平成 19 年に島根県内で平年に比べ多く獲れた魚種を揚げると右の表のようになります※。

近年はサワラなど暖水系の魚類が増えているとよく言われますが、一方でマダラ、ヤリイカ(テナシ)、ソウハチ(エテガレイ・シロガレイ)などの冷水を好む魚類も昨年は多く獲れています。魚類の漁獲量は水温などの海況、魚の資源状態、漁業者の漁獲努力量、漁場選択など複数の要因により左右されますので、単純に理由を説明するのは困難ですが、ここ数年の傾向で見ると、タラ類、マイワシ、サワラ、アンコウなどは明らかに増加傾向にあります(右下のグラフ)

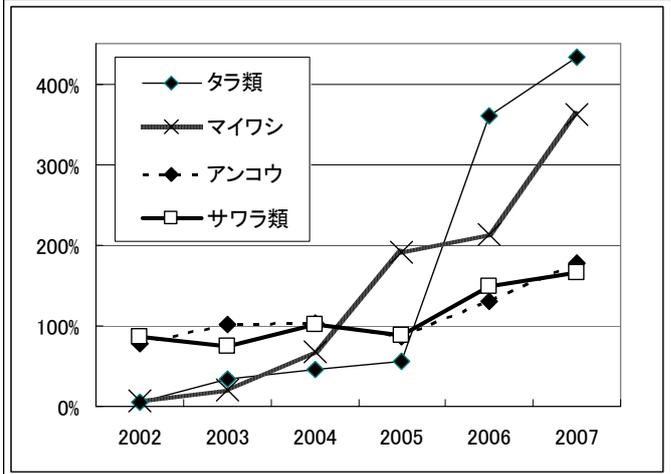
※ データは島根県 TAC 漁獲管理システムによる



小型底びき網で獲れたマダラ

魚種名	平年比 (過去5年平均との比)	平成19年の 漁獲量(トン)
マダラ	434%	118
マイワシ	362%	3,646
メイタガレイ	220%	266
タコ類	217%	382
ヤリイカ	208%	404
アンコウ	178%	1,273
ソウハチ	176%	1,829
クロマグロ	176%	236
サワラ類	165%	1,053
アカガレイ	151%	428

平成 19 年に県内で平年に比べ多く獲れた魚種(過去 5 年の漁獲量の平均値を 100%とした漁獲量の割合)



島根県下で増加傾向にある魚種(過去 5 年の漁獲量の平均値を 100%とした漁獲量の割合)

## 平成 19 年に獲れた珍しい魚介類



### ダイオウイカ

左:西郷・定置網(平成 19 年 1 月 11 日) 外套長 1.7m、体重 134kg

右:多伎町で捕獲(平成 19 年 1 月 24 日)、外套長 1.4m、体重 74kg

1月に隠岐の島町と多伎町で相次いでダイオウイカが捕獲されました。ダイオウイカは深海に住む巨大なイカで、その生態は謎に包まれています。



### ジンベエザメ(9月4日、多伎町・定置網)

世界最大の魚類として知られるジンベエザメが多伎町の定置網に入りました。この個体は全長約4mで、未成体と思われます。(写真提供:たき保育園)



### イトマキエイ(11月6日、浜田・定置網)

主に太平洋側の暖海域に生息する大型のエイです(この個体は体幅 2.3m)。ジンベエザメと同様、プランクトンを食べています。



アカオニナマコ(アクアスで飼育中、浜田) 南方系のナマコですが、浜田で漁獲されているのが確認されています。

(写真提供:しまね海洋館アクアス)



### マガキガイ(7月30日、大社)

高知などで「ちゃんばら貝」として知られる暖海性の貝です。大社である程度の数が生息していることが確認されています。

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)